

創造と挑戦

体操という競技は難度別に分けられた技を**創造**性を働かせてうまく組み合わせ、かつ、それを美しく、確実に行うことで点数、順位を競うとともに、その中で自分の限界に**挑戦**し続ける競技だと思えます。

鉄棒、平均台、床などで何回回れて、何回ひねれるか、いくつ技を連続させられるか。

「ウルトラC」という言葉はもう50年も60年も前の話で、いまや男子ではC難度から、D、E、F、G、H難度を経て「I難度」、女子では「J難度」まで設けられており、2004年のアテネオリンピック以降、10点満点制度が廃止され、上限を設けない採点規則へと変わりました。

この採点規則の変更は、技の高難度化に伴い、器具も発達、そしてその器具でまた技の高難度化が繰り返され、もはや10点満点制度では差がつけられにくいというのが理由のようです。

本校の体操部も令和5年度 兵庫県高校総体で男女ともに優勝し、北海道で開催のインターハイ（全国高等学校総合体育大会）出場を決めました。

競技でありながら、演技でもある体操。創造と挑戦を日々続けてきた、本校の体操部員たちも北海道の地で、練習の成果を、持てる力を、全て発揮してくれることを祈ります。







